

国宝の保存

国宝への道

松本城が国の史跡に指定されたのは 1930 年。その 6 年後、国宝に指定された。

1929 年に制定された「国宝保存法」は、国宝に指定されるための基準や手続きなどを定めた法律である。この法律は、第二次世界大戦後の日本占領に伴う法体系の再編成の中で、置き換えられた。そのため、混同を避けるため、旧法指定されたものを「旧国宝」と呼ぶこともある。

1936 年の松本城の指定は比較的遅かった。松本城が国の史跡に指定された 1930 年には、16 城が国宝に指定されていた。名古屋城、姫路城、岡山城、広島城、福山城、仙台城、熊本城、首里城、丸岡城、高知城、宇和島城、犬山城、金沢城、和歌山城、松江城、そして松山城が挙げられる。

残念ながら、第二次世界大戦中の空襲で多くの城が焼失してしまったが、松本城はそのような運命を免れることができた。1950 年に「文化財保護法」が制定され、松本城はそのわずか 2 年後に国宝に再指定された。松本城は、姫路城に次いで 2 番目の国宝指定となった。指定された当時、松本城は歴史上最も大規模な修理が行われていた。

松本城の保存

(1) 江戸時代（1603～1867）の増築と修理

増築

1594 年、石川氏によって大天守、乾小天守、渡櫓が築かれ、城を囲む三重の堀が整備された。その 40 年後、松平直政（1601-1666）の時代に、辰巳附櫓と月見櫓が追加された。

その結果、連結式と呼ばれる大天守と乾小天守が渡櫓でつながる形式に、辰巳附櫓と月見櫓が付く複合式とよばれる形式が加わって、連結複合式という現在の天守の配置が完成した。この組み合わせは、現存する城郭の中でも異彩を放っている。直政は黒門の北側にさらに櫓を追加し、二の丸には米を貯蔵する大きな倉庫を 2 棟建てたが、これらの建物は現存していない。

修理

江戸時代、城の修理や修繕はかなり頻繁に行われたようだが、その詳細な記録はほとんど残っていない。例えば、江戸時代中期以降、戸田家が統治していた松本では、1733、1758、1779、1781、1782、1802、1817、1826、1832、1842 年に修理が行われたことが分かっている。しかし、これらの修理の具体的な内容は不明である。

(2) 明治時代（1868年～1912年）の修理

1868年、明治維新を経て、日本は石造建築をはじめとする西洋文化が多く取り入れられるようになった。その結果、松本城のような木造の城は、戦国乱世の遺物とみなされるようになった。多くの城が取り壊され、公共施設等に転用された。松本城は救われたものの、瓦が割れ、壁が崩れ、黒漆塗りの下見板張りが色あせるなど、急速に老朽化が進んだ。

松本城は、中学校長の小林有也（1855-1914）がいなければ、最終的には崩壊していたかもしれない。小林は天守の現状を目の当たりにし、松本天守保存会を設立したこの会は、松本城の修理に必要な資金を集め、政府から修理許可を受けた。

修理は1903年に始まり、日露戦争（1904～1905年）を挟んで、1913年に完成した。この工事に携わった棟梁の一人、佐々木喜重は、後に長野県のユニークな凝洋風校舎である山辺学校を設計することになる。

詳しい記録は残っていないが、内部の石段の積み直し、筋違の追加、壁の漆喰の塗り直し、金物による骨組みの補強、城の傾きの修正などが行われたと思われる。その結果、城の老朽化は避けられたが、新しい窓が追加され、外観は大きく変化した。この修理は、地元住民の支援によって実現したもので、修理費の約8割は住民の寄付によってまかなわれた。

(2) 昭和時代（1926-1989）の修理

戦後、1946年の秋、連合国軍最高司令官総司令部（SCAP）民間情報局美術顧問が長野県を訪れた。彼の名はチャールズ・F・ギャラガー（Charles F. Gallagher）。松本城の現状を見たギャラガーは、一刻も早く修理を行うよう勧告した。

この勧告を受け、東京国立博物館保存修理課長の大岡實（1900-1987）と東京大学教授の藤島亥治郎（1899-2002）が事前調査を行った。1948年、「松本城址風致地区保存会」が結成され、資金調達や文部省への陳情書の作成に協力した。その結果、1950年6月8日から大規模な修理が始まった。

これは、前例のない大規模なもので、松本城を完全に解体しての工事であった。その目的は、江戸時代の城郭の姿を取り戻すことであった。しかし、この改修工事で基礎部分を徹底的に調査し、地下の木柱を鉄筋コンクリートに変えて耐久性を向上させることが決定された。

1950	June 8	起工式
	August	解体開始

	August 15	松本市博物館から松本城保存建築事務所に管理が移管される
1952	June 11	大工による再建の始まりを告げる「鉦始式」
1953	October 3	上棟式
1955	October 1	竣工式
	October 8	大天守閣 6 階に城の守護神である二十六夜神を再祀
	October 15	城の継続管理を松本市博物館へ引き継ぐ

この事業の過程で、松本市は姫路城と松江城のある姫路市と松江市に働きかけ、1951年9月18日に「全国城郭保存協議会」の設立準備会を開いた。その後、11月には他の城郭都市も加わり、姫路で第1回目の協議会が開催された。この組織はやがて解散したが、現在の日本城郭管理者協議会の基礎となった。